

# 2023 年度 事業報告

## はじめに

2023 年 6 月 22 日、富士山が世界遺産に登録されてから 10 周年を迎えました。当日は、富士山世界文化遺産協議会・静岡県・山梨県の主催で「富士山世界文化遺産登録 10 周年記念式典」が東京国際フォーラムで開催され、「未来に向け両県が連携し、古から引き継がれた顕著な普遍的価値を守り伝えながら、世界に冠たる地域への発展を目指す」とする共同宣言が発表されました。

本年の開山日から閉山日までの山梨・静岡両県の 4 つの登山口の登山者数の合計は約 22 万 1 千人で、昨年よりも 6 万 1177 人(38.2%)増加し、コロナ禍前である 2019 年と比較すると、今年は 94%となりました。今夏の富士山は、新型コロナウイルス感染症の 5 類移行に伴い、外国人を含めて多くの観光客と登山者が訪れ、登山道の混雑やマナーの問題などがメディアでも取り上げられました。

富士山世界遺産国民会議は、引き続き世界文化遺産富士山の保全・管理に関する取り組みを、山梨・静岡両県とともに進め、富士山の保全に資する活動および情報発信や PR 活動を実施してまいりました。今後も両県や現地組織が進める富士山の保全に関わる活動との連携強化をはかるとともに、富士山の世界文化遺産としての普遍的な価値の理解促進と未来への継承を目的とした取り組みを展開してまいります。

## 目次

<b>1</b>	各種委員会の運営	2
<b>2</b>	オブザーバー出席した各種会議	2
<b>3</b>	主催および共催事業	3
<b>4</b>	ふじさんゼロゴミアクション	3
<b>5</b>	富士山ロングトレイル	10
<b>6</b>	PR/啓発活動および後援事業	11
<b>7</b>	富士山基金事業と富士山基金への寄付	14

## **1** 各種委員会の運営

### 1) 運営委員会

日時 1月27日(金)、3月20日(月)、4月17日(月)、5月16日(火)、6月21日(水)、  
7月19日(水)、9月20日(水)、10月18日(水)、11月21日(火)、12月21日(木)  
計 10回

場所 富士山世界遺産国民会議事務局

内容 活動内容の検討と活動報告

### 2) 評議員会

日時 2月7日(火)/第97回、4月4日(火)/第98回、5月30日(火)/第99回、  
7月18日(火)/第100回、9月6日(水)/第101回、10月23日(月)/第102回、12月11日(月)/第103回  
計 7回

場所 富士山世界遺産国民会議事務局/キャピタル・アドバイザー株式会社会議室/株式会社ICMG 会議室

内容 活動内容の検討と活動報告

## **2** オブザーバー出席した各種会議

### 1) 富士山世界文化遺産協議会

第17回富士山世界文化遺産協議会は書面により開催されました。

### 2) 富士山世界文化遺産学術委員会

第20回 日時 2月14日(火) 場所 都道府県会館(東京・千代田区)

第21回 日時 11月27日(月) 場所 全国都市会館(東京・千代田区)

### 3) 富士山利用者負担専門委員会

第13回 日時 2月20日(月) 場所 都道府県会館(東京・千代田区)

### 4) 富士山世界文化遺産登録10周年記念式典

日時 6月22日(木) 場所 東京国際フォーラム(東京都千代田区丸の内)

### 3 主催および共催事業

#### ●富士(ふじ)の国(くに)づくりキッズ・スタディ・プログラムについて

「富士(ふじ)の国(くに)づくりキッズ・スタディ・プログラム」教材 WEB 配布サイトは、2023 年 3 月 31 日(金)をもって終了しました。当サイトは 2018 年 1 月に開設され、富士山の文化的価値を子供たちに継承し富士山を大切に  
する心を育む教材として、また世界文化遺産富士山の情報提供戦略の一つに位置付けられたプログラムとしての  
役割を果たしました。郵送やサイトを利用してダウンロードされた教材は、サイト終了後も教育目的に限り使用可能  
です。



### 4 ふじさんゼロゴミアクション

一般社団法人マウントフジトレイルクラブと連携して「ふじさんゼロゴミアクション」の活動を推進しています。  
今年度も継続的に富士山周辺で清掃活動を実施しました。

#### ●清掃活動

① 2 月 27 日(月)に富士南麓の静岡県裾野市の国道 469 号線沿いで清掃活動を実施しました。須山口登山道  
入口近くの神明神社から十里木方面へ約 1 キロの区間、交通量が多く、ポイ捨てゴミが目立つ場所です。空き缶、  
ペットボトル、弁当のプラ容器やパンのポリ袋などのポイ捨てゴミ、意図的に捨てたと思われる家庭ゴミ、ナベ、絨  
毯、ファンヒーター、キャンプゴミなど、計 142.83kg のゴミを回収しました。回収したゴミは裾野市生活環境課の担  
当者が処理施設へ運んでくれました。



② 3月24日(金)に、2月に引き続いて静岡県裾野市の国道469号線沿いで清掃活動を実施しました。今回の活動エリアは、国道469号線の愛鷹登山道入口分岐周辺の約1.5kmの区間です。回収したゴミの量は合計117.4kgと多く、道路脇や笹藪の中にポイ捨てされています。特に残念だったのは、4週間前に清掃した場所にも、新たにゴミが捨てられていたことです。「ゴミが捨てられないようにするには、どうしたらいいのか？」とても難しい課題ですが、対策の必要性を強く感じます。今回は裾野市役所の方にも参加していただき、私たちの活動の後押しにもなりました。自治体や行政と協力できることによって、やれることも変わってくるので、とても心強いです。これからも富士山からゴミを無くして、ゴミが捨てられない社会になるように努めていきます。



③ 4月13日(木)に山梨県富士吉田市で清掃活動を実施し、合計140kgのゴミを回収しました。今回の清掃場所は東富士五湖道路付近で交通量も多く、ポイ捨てされたゴミが散見されます。富士山パーキング周辺で、夏の登山シーズンは多くの登山者や観光客が行き交う場所です。東富士五湖道路のフェンス内にもたくさんのゴミ投げ込まれていましたが、許可が必要のため回収できず、このゴミは管理会社に対応していただけるということになりました。今回は、全国山の日協議会常務理事の三木健一さんに参加していただきました。また、回収したゴミの処分は、富士吉田市にご協力いただきました。

◆全国山の日協議会三木さんの参加レポートはこちらから <https://yamanohi.net/report.php?id=2676>



④ 5月22日(月)に、4月に引き続き、山梨県富士吉田市の東富士五湖道路沿いの一般道周辺で清掃活動を実施しました。可燃物やビン・缶などのポイ捨てゴミに加えて、今回は橋下や沢に投げ込まれた不法投棄のゴミの回収に特に重点を置きました。掃除機やガスコンロ、使用済みの便座、オーブントースター、炊飯器などの家電製品を撤去し、布団などの粗大ゴミも含めて、合計 187.1kg を回収できました。活動の様子は、後日改めて動画でご紹介する予定です。今回も富士吉田市様に回収したゴミを引き取っていただきました。



⑤ 9月28日(木)に山梨県富士吉田市と忍野村をつなぐ県道717号線で清掃活動を実施しました。ブラウン管テレビやタイヤなど、むかし捨てられた不法投棄のゴミが多いエリアでした。合計 207kg のゴミを回収し、その中でも特に粗大ゴミが多かったです。まだ回収しきれないがあるので、継続して実施したいと思います。ゴミの廃棄は、富士吉田市様に協力していただきました。



⑥ 9月に引き続いて、10月18日に山梨県富士吉田市と忍野村の区間を清掃しました。このエリアは、峠を越える道で人目につかないため、不法投棄の粗大ゴミが多い場所です。昔のバイクやブラウン管のテレビ、廃タイヤなど、合計 212kg を回収しました。斜面や悪路での作業でしたが、長い間放置されてきたゴミを回収できて良かったです。引き続き、清掃活動や啓発活動に取り組んでまいります。



⑦ 9月と10月に引き続き、11月24日に山梨県道717号山中湖忍野富士吉田線を清掃しました。可燃ゴミや不燃ゴミに加えて、粗大ゴミ、産業廃棄物も多いエリアです。洗濯機2台、液晶テレビ、電子レンジ、ガスコンロなどの家庭の粗大ゴミも含めて、合計約400kgのゴミを回収できました。まだ回収しきれていない状況ですので、このエリアでの清掃活動を継続していきます。



⑧ 12月4日も引き続き、山梨県道717号山中湖忍野富士吉田線を清掃しました。沿道の草木も枯れて、ゴミも見えやすく清掃活動もはかどる季節。3時間の活動で148kgのゴミを回収しました。富士山周辺のバイパスに比べると、尿が入った「しょんボトル」は少ないですが、不法投棄の粗大ゴミが多いのが特徴です。道路から投げ込まれたゴミは、斜面を転がり遠くへ分散して。回収するのに一苦労します。捨てる行為は一瞬ですが、自然をきれいに戻すのに時間と労力、危険も伴うので、啓発活動の重要性を感じます。



⑨ 12月20日に山梨県の富士吉田市と忍野村をつなぐ山梨県道717号で清掃活動を実施しました。長い間放置されて土に埋まっているようなゴミを掘り出したり、転んだら滑落してしまうような斜面から引き上げたり、危険な作業に苦戦しながらも348kgのゴミを回収できました。この道路沿いでは9月から12月にかけて延べ4日半活動して、合計1.3トンのゴミを回収したことになります。当日は「全国山の日協議会」の梶正彦理事長にも参加していただき、貴重な機会となりました。いつも現場でゴミを回収してくださる富士吉田市にも御礼申し上げます。



## ●その他の活動

① ふじさんゼロゴミアクションの活動が、5月30日のYBS山梨放送「YBSワイドニュース」にて放送「世界文化遺産登録から10年 富士山 課題解消への取り組み」として紹介されました。

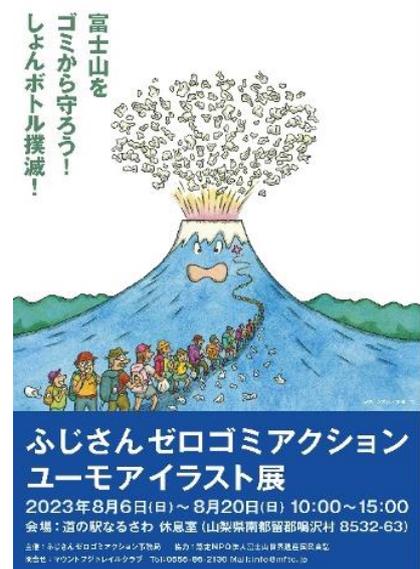
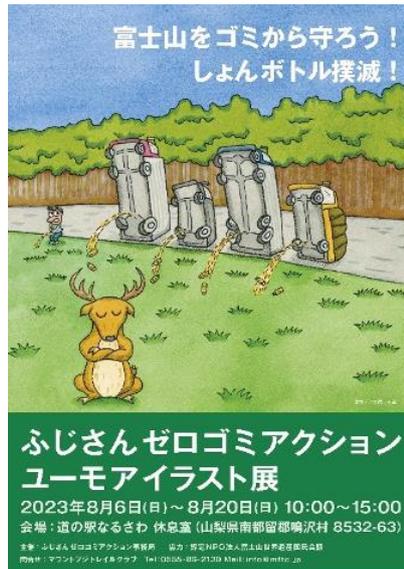
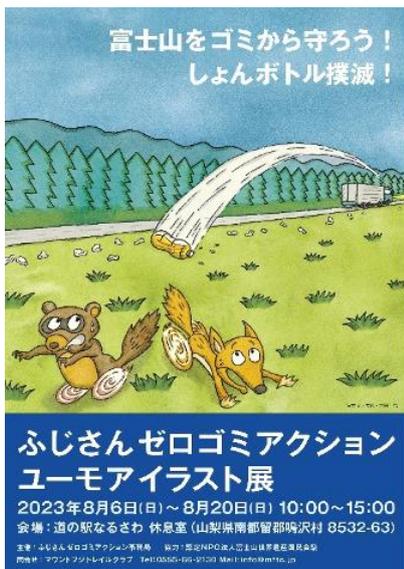


## ② 「ふじさんゼロゴミアクション ユーモイラスト展」開催について

8月6日(日)～8月20日(日)に山梨県富士河口湖町鳴沢村の道の駅なるさわで、「ふじさんゼロゴミアクション ユーモイラスト展」を開催しました。環境マンガ家・本田亮さんが描いた富士山のゴミ問題をテーマにしたイラストを通して、多くの方々に富士山のゴミ問題を知っていただくことができました。

参加者からは、「とてもわかりやすく富士山の問題を知ることができた」「富士山のゴミ問題について知るきっかけとなり、自分にできる取り組みを行いたいと思った」「かわいくわかりやすく、とても素敵。富士山のゴミ問題を身近に感じられる」「富士山のゴミ問題について、よく知らなかったけど、今回のイラスト展でよく知れた」「山梨でもおしっこペットボトルが問題となっていると知りショックだった。またこのような展示会をして欲しい」「しょんボトルという存在を初めて知った。こんなに問題だとは思っておらず、何か策はないのかと感じる」などの感想が寄せられました。

引き続き富士山会議としては、将来的に富士山からゴミがゼロになる環境作りを目指していきます。



本田 亮 環境マンガ家、イラストレーター、クリエイティブディレクター

1990年より社会貢献活動として環境問題を啓蒙するイラストを描き始める。2020年より、テーマをSDGsに拡げ、青山アートスクエアを皮切りに大阪カップヌードルミュージアム、横浜高島屋など多くの場所でSDGs ユーモアイラスト展を開催。近著に「ムズカシそうなSDGsのことがひと目でやさしくわかる本」(小学館)。日本赤十字社のために制作したコロナウィルス対応動画は250万回のアクセス達成。2020年ノーベル平和賞受賞の国連WFP協会理事も務めている。



YBS 山梨放送「YBS ワイドニュース」6月16日

※山梨放送公式 YouTube [https://www.youtube.com/watch?v=Oc\\_ba0Vj84](https://www.youtube.com/watch?v=Oc_ba0Vj84)



産経新聞中部版 8月4日 開催告知広告

富士河口湖観光総合案内所に開催告知ハガキを設置

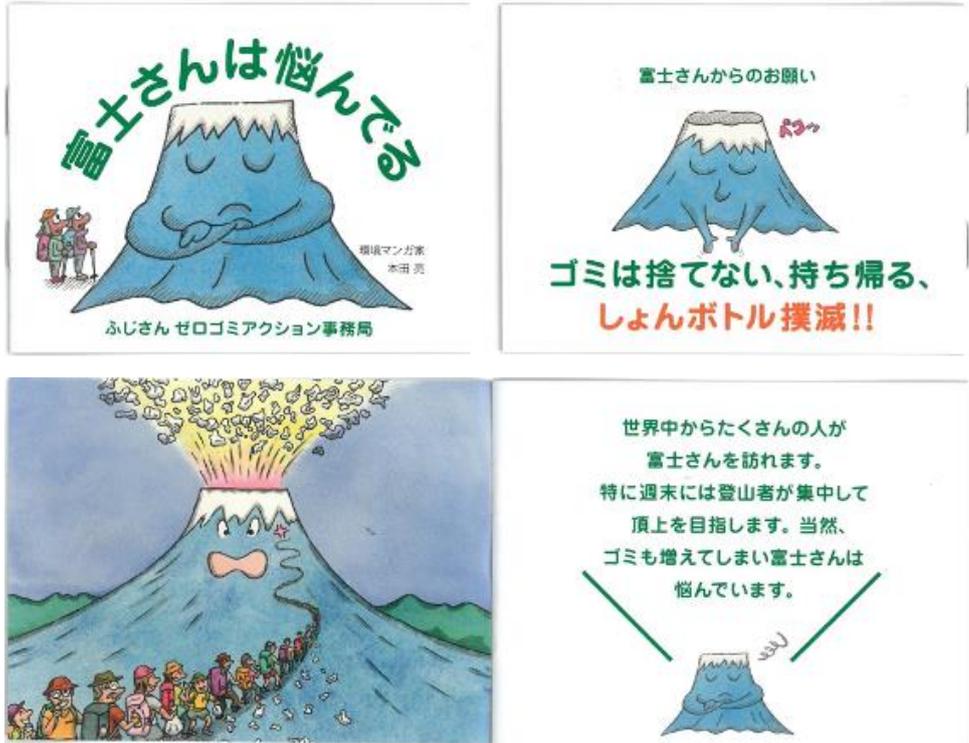


山梨日日新聞 8月9日



TBS NEWS DIG 8月8日

●会場では富士山のゴミ問題を描いた小冊子「富士さんは悩んでる」を配布しました。



③ 富士山御殿場口新5合目にて「アリガト山ゼロゴミポーチ」他を配布

富士山御殿場口新5合目に7月10日～9月10日の夏山シーズン中に開設されたマウントフジトレイルステーションで、来場者にアリガト山ゼロゴミポーチ・ステッカー・クリアファイル・ポストカードを配布し、PR活動を展開しました。配布数:アリガト山ゼロゴミポーチ 100個 ステッカー500枚 クリアファイル 150 ポストカード 1000セット



## 5 富士山ロングトレイル

① 富士山ロングトレイルのパフレットが完成しました。トレイルの概要、モデルコース、地図等の情報で構成されています。富士山周辺の各施設へ設置を依頼する予定です。



② 11月21日(火)に池袋サンシャインシティで開催された第1回ジャパントレイルフォーラムの会場でブース出展と富士山ロングトレイルの概要を紹介するプレゼンテーションを実施しました。



③ 富士山ロングトレイルを歩くツアーを、マウントフジトレイルクラブ主催で実施しています。



④ 5月20日～21日と5月29日～6月4日に山梨県山中湖村で実施された「石割山登山道補修プロジェクト第3弾」に富士山ロングトレイル運営スタッフが参加しました。このプロジェクトは2022年5月にスタートし今回は第3弾となります。「植生の復元」を目指しながら崩壊が進む石割山周辺の登山道を修復することを目的とするこのプロジェクトで、登山道の補修と生態系の復元について学びました。今回は昨年補修した箇所を経過観察することができ、植生の回復の兆しや補修箇所の定着を確認することができました。富士山ロングトレイルのコース上には、流水や踏圧などにより浸食が進んだ箇所や登山道の複線化などにより植生がダメージを受けている箇所が複数あります。富士山ロングトレイル運営委員会は今回の学びを生かして、コースの保全・管理に取り組んでいきます。



⑤ 11月20日～23日と12月2日～4日に山梨県山中湖村で実施された「石割山登山道補修プロジェクト第4弾」に富士山ロングトレイル運営スタッフが参加しました。石割山山頂部と周辺の登山道の修復に取り組み、生態系の復元と登山道修復について学びました。



## 6 PR/啓発活動および後援事業

### 1) 富士山インタビューVol.100～Vol.104 をリリース

「富士山インタビュー」Vol.100～Vol.104 を新たにリリース、啓発の幅の拡大を図りました。

- Vol.100 田部井政伸 : 一般社団法人田部井淳子基金 代表理事
- Vol.101 橋都彰夫 : 半蔵坊館長、わらじ館館長
- Vol.102 上小澤 翔吾 : 富士吉田市教育委員会 富士登山競走実行委員会事務局
- Vol.103 杉村 知穂 : 富士宮市教育委員会 教育部文化課
- Vol.104 河野 格 : 登山ガイド



## 2) PR/啓発活動他

### ● 富士山世界文化遺産登録 10 周年記念式典

富士山の世界文化遺産登録が決定して 10 周年を迎えた 6 月 22 日に、東京国際フォーラム(東京都千代田区丸の内)で 富士山世界文化遺産登録 10 周年記念式典が開催され、約 400 名が参加しました。式典では、山梨県長崎幸太郎知事と静岡県川勝平太知事が、「未来に向け両県が連携し、古から引き継がれた顕著な普遍的価値を守り伝えながら、世界に冠たる地域への発展を目指す」とする共同宣言に署名しました。富士山世界文化遺産学術委員会委員長を務める富士山会議青柳正規理事長は、「世界遺産としての富士山」と題して基調講演を行い、「富士山は日本人の心の支えとなっていて、信仰の対象、芸術の源泉として世界に認められている富士山を将来の世代のためにも保全し続けることが必要だ」と語りました。富士山会議小田全宏運営委員長がコーディネーターを務めたパネルディスカッション「富士山から発信する持続可能な社会の実現」では、環境保全や信仰文化の伝承の重要性について意見が交わされました。参加者には、富士山会議より、ポストカード・クリアファイル・ステッカーをプレゼントしました。



### ● 2023 年来訪者管理戦略について

6 月 13 日に富士登山オフィシャルサイトにアップされた新着情報「混雑情報をチェックし、快適な富士登山を楽しみましょう！」を富士山会議のホームページニュース欄、Facebook ページ、Twitter で紹介しました。

富士登山オフィシャルサイト <https://fujisan-climb.jp/risk/congestion.html>



## ●山梨県の広報誌「ふれあい」小田運営委員長対談記事掲載

山梨県の広報誌「ふれあい」に富士山会議小田全宏運営委員長と富士エコツアーガイドの近藤光一さんとの対談記事が掲載されました。富士山の世界遺産登録や保全活動に深く関わってきた2人が、それぞれの立場から富士山の価値や保全の在り方などについて語り合いました。



## ●「東北の高校生への富士登山 2023」を応援

女性初のエベレスト登頂者で登山家の故・田部井淳子さんの遺志を継ぐ「東北の高校生への富士登山」(田部井淳子基金主催)が7月25日(火)～27日(木)に開催され、宮城県と福島県から参加した高校生26人が26日午前10時に富士山・剣が峰に登頂しました。今回も、富士山会議からは参加者に、アリガト山ゼロゴミポーチ・ポストカード・OS-1・ビニールケース・クリアファイルをプレゼントして応援しました。



## ●「トレイルランナーズカップ静岡 2023」で PR ツール配布

8月6日(日)に静岡県富士市の富士山こどもの国で開催された「トレイルランナーズカップ 2023」で、参加選手全員に、富士山会議ロゴ入りビニールケースと OS-1 パウダーのセットおよび OS-1 500ml ペットボトルとを配布しました。OS-1 は株式会社大塚製薬工場様からご提供いただきました。参加者は 6km の部 164 名、3km の部 320 名。3 歳からエントリーできる大会で、親子参加の家族が数多くいて、幅広い年齢層に PR することができました。



## ●2023 年夏山シーズンの PR 活動(前記以外のもの)

PR ツールを以下の内容で配布しました。

1. 富士河口湖観光総合案内所(河口湖駅隣接) クリアファイル 100、ポストカード 300、ステッカー300
2. 富士山吉田口日の出館 ポストカード 2000 セット

## 7 富士山基金事業と富士山基金への寄付

富士山基金は 2006 年 7 月 1 日に設立。幅広い募金活動を通じて、世界文化遺産富士山の文化的景観を未来に継承するための運動を、地元静岡・山梨はもちろんのこと広く全国にアピールし、富士山の保全管理活動を国・地方自治体だけに頼るのではない、新しい官民一体の運動体とすることで、国民の環境や日本の文化に対する意識改革につなげることを目的としています。

2022 年度末富士山基金残高：	9,662,576 円
2023 年度富士山基金募金額：	7,280,229 円(7,280,157 円と利息 72 円)
2023 年度富士山基金取崩額：	△6,642,273 円(振込手数料と残高証明書発行手数料含む)
2023 年度末累計残高：	10,300,532 円

### 1. 2023 年度富士山基金を利用した PR/啓発等の活動

#### 1)「富士(ふじ)の国(くに)づくりキッズ・スタディ・プログラム」の推進

2018 年 1 月 15 日(月)にスタートした教材のオンライン配布サイトの運営・管理と普及活動を継続しました。

金額 525,447 円

#### 2)ホームページおよび SNS での PR 推進

さまざまな分野で富士山に関わる活動を続けている方々に登場していただき、富士山との出会い、関わり方とその歴史、富士山への思い等を紹介する富士山インタビューをはじめとするホームページのコンテンツ制作や SNS での情報発信を推進しています。

金額 2,936,449 円

### 3)「ふじさんゼロゴミアクション」の推進

山梨県・静岡県富士山麓の清掃活動を1月から12月までの期間に合計9回実施したほか、8月に啓蒙活動として「ふじさんゼロゴミアクション ユーモアイラスト展」を開催しました。

金額 3,177,957 円

## 2. 2023 年度主な富士山基金寄付

寄付者	金額
goodbymarket	30 000
株式会社中川政七商店	91 290
菅原工芸硝子株式会社	26 090
ベネフィット・ワン	85 700
山梨中央銀行	754 100
静岡銀行	2 085 503
米久株式会社	2 776 000
株式会社ルーク	8 000
株式会社美好商会	10 000
株式会社東海コクボ	690 000
ルノー・ジャポン株式会社	125 072
BOLSTER 株式会社 松田忠浩氏	6 259
新橋製紙(株)	50 000
安田真一	8 143
(株)FUJISEY	474 000

合計 7 280 157

(敬称略/順不同)

(単位:円)

※寄付者数:16

※匿名希望の方は表記していません。

## 令和5年度 財産目録

令和5年12月31日現在

特定非営利活動法人 富士山世界遺産国民会議

(単位:円)

科 目	金 額	金 額	金 額
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
現金	1,847		
普通預金みずほ銀行築地支店	14,916,823		
前払費用			
前払家賃	229,211		
ソリマチ株	33,000		
三菱HCビジネスリース(株)	6,116		
東京センチュリーリース(株)	3,667		
流動資産合計		15,190,664	
2 固定資産			
(1)有形固定資産			
什器備品			
会議室用大テーブル	1		
シュレッダー	1		
液晶薄型テレビ	1		
デスクトップPC	1		
ノートPC	1		
デスクトップPC	1		
レノボPC	1		
ノートPC	4,258		
電話・LAN工事一式	229,621		
スマートフォン一式	84,497		
有形固定資産計	318,383		
(2)無形固定資産			
無形固定資産計	0		
(3)投資その他の資産計			
敷金	1,200,000		
富士山基金特定預金(ゆうちょ銀行)	2,308,659		
富士山基金特定預金(静岡銀行東京支店普通)	2,255,715		
富士山基金特定預金(みずほ銀行虎ノ門支店)	2,490,709		
富士山基金特定預金(山梨中央銀行東京支店)	3,245,449		
投資その他の資産計	11,500,532		
固定資産合計		11,818,915	
資産合計			27,009,579
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金			
派遣職員費	165,782		
通信費	23,935		
荷造運賃	9,031		
業務委託費	1,215,000		
コピー代	8,547		
流動負債合計		1,422,295	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			1,422,295
正味財産			25,587,284

## 令和5年度 貸借対照表

令和5年12月31日現在

特定非営利活動法人 富士山世界遺産国民会議

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	14,918,670		
前払費用	271,994		
流 動 資 産 合 計		15,190,664	
2 固定資産			
(1)有形固定資産			
器具什器	318,383		
有形固定資産計	318,383		
(2)無形固定資産			
無形固定資産計	0		
(3)投資その他の資産			
敷金	1,200,000		
富士山基金特定預金	10,300,532		
投資その他の資産計	11,500,532		
固 定 資 産 合 計		11,818,915	
資 産 合 計			27,009,579
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	1,422,295		
流 動 負 債 合 計		1,422,295	
2 固定負債			
固 定 負 債 合 計		0	
負 債 合 計			1,422,295
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		20,503,514	
当期正味財産増減額		5,083,770	
正味財産合計			25,587,284
負債及び正味財産合計			27,009,579

## 令和5年度 活動計算書

令和5年1月1日から令和5年12月31日まで

特定非営利活動法人富士山世界遺産国民会議

(単位:円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1 受取会費		
正会員受取会費	240,000	
2 受取寄附金		
一般寄附金	45,620,000	
基金寄附金	7,280,157	
3 その他収益		
実費弁償金収入	1,115,111	
雑収入	1,684	
受取利息	162	54,257,114
経常収益計		54,257,114
II 経常費用		
1 事業費		
(1)人件費		
派遣職員費	1,827,319	
人件費計	1,827,319	
(2)その他経費		
PR活動費	14,252,955	
研究費	5,512,827	
IT関連費	2,235,155	
会議費	159,703	
通信費	213,811	
荷造運賃	42,867	
接待交際費	19,180	
旅費交通費	1,108,544	
消耗品費	60,975	
印刷費	269,524	
地代家賃	2,547,584	
リース料	21,718	
業務委託費	17,479,253	
その他経費計	43,924,096	45,751,415
事業費計		45,751,415
2 管理費		
(1)人件費		
派遣職員費	456,829	
法定福利費	21,722	
人件費計	478,551	
(2)その他経費		
通信費	128,471	
旅費交通費	4,840	
業務委託費	1,281,700	
消耗品費	323,570	
備品費	14,689	
新聞図書費	122,826	
地代家賃	636,897	
租税公課	1,450	
リース料	5,430	
支払手数料	92,370	
会議費	79,423	
保守料	33,000	
減価償却費	218,712	
その他経費計	2,943,378	3,421,929
管理費計		3,421,929
経常費用計		49,173,344
当期経常増減額		5,083,770
III 経常外収益		
経常外収益計		0
IV 経常外費用		
経常外費用計		0
当期正味財産増減額		5,083,770
前期繰越正味財産額		20,503,514
次期繰越正味財産額		25,587,284

## 令和5年度 計算書類の注記

特定非営利活動法人 富士山世界遺産国民会議

## 1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日/2011年11月20日一部改正/NPO法人会計基準協議会)によっている。

- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法  
棚卸資産の評価は最終仕入原価法によるが、重要性の乏しいものは評価していない。
- (2) 固定資産の減価償却の方法  
建物付属設備及び什器備品の減価償却は定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準  
引当金計上の必要性がないため、計上していない。
- (4) 施設の提供等の物的サービスを受けた場合の会計処理  
施設の提供等の物的サービスを受けた場合には活動計算書に計上する。

## 2. 事業別損益の状況

(単位：円)

科目	富士山 世界遺産事業	事業	事業	事業	事業部門計	管理部門	合計
<b>I 経常収益</b>							
1. 受取会費	240,000				240,000	0	240,000
2. 受取寄附金	52,900,157				52,900,157	0	52,900,157
3. その他収益	1,116,957				1,116,957	0	1,116,957
経常収益計	54,257,114				54,257,114	0	54,257,114
<b>II 経常費用</b>							
(1) 人件費							
派遣職員費	1,827,319				1,827,319	456,829	2,284,148
法定福利費	0				0	21,722	21,722
人件費計	1,827,319				1,827,319	478,551	2,305,870
(2) その他経費							
PR活動費	14,252,955				14,252,955	0	14,252,955
研究費	5,512,827				5,512,827	0	5,512,827
I T関連費	2,235,155				2,235,155	0	2,235,155
会議費	159,703				159,703	79,423	239,126
通信費	213,811				213,811	128,471	342,282
荷造運賃	42,867				42,867	0	42,867
接待交際費	19,180				19,180	0	19,180
旅費交通費	1,108,544				1,108,544	4,840	1,113,384
消耗品費	60,975				60,975	323,570	384,545
印刷費	269,524				269,524	0	269,524
地代家賃	2,547,584				2,547,584	636,897	3,184,481
リース料	21,718				21,718	5,430	27,148
業務委託費	17,479,253				17,479,253	1,281,700	18,760,953
備品費	0				0	14,689	14,689
新聞図書費	0				0	122,826	122,826
租税公課	0				0	1,450	1,450
支払手数料	0				0	92,370	92,370
保守料	0				0	33,000	33,000
減価償却費	0				0	218,712	218,712
その他経費計	43,924,096				43,924,096	2,943,378	46,867,474
経常費用計	45,751,415				45,751,415	3,421,929	49,173,344
当期経常増減額	8,505,699				8,505,699	-3,421,929	5,083,770

## 3. 施設の提供等の物的サービスの受入の内訳

(単位：円)

内容	金額	算定方法
該当なし		

## 4. 使途等が制約された寄附金等の内訳

使途等が制約された寄附金等の内訳（正味財産の増減及び残高の状況）は以下の通りである。

当法人の正味財産は25,587,284円であるが、そのうち10,300,532円は、下記のように使途が特定されている。

したがって使途が制約されていない正味財産は15,286,752円である。

(単位：円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
富士山基金	9,662,576	7,280,229	6,642,273	10,300,532	当期増加額のうち72円は、富士山基金特定預金の受取利息分である。
合計	9,662,576	7,280,229	6,642,273	10,300,532	

## 5. 固定資産の増減内訳

(単位：円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
什器備品	2,052,612			2,052,612	1,734,229	318,383
投資その他の資産						
敷金	1,200,000			1,200,000		1,200,000
富士山基金特定預金	9,662,576	7,280,229	6,642,273	10,300,532		10,300,532
合計	12,915,188	7,280,229	6,642,273	13,553,144	1,734,229	11,818,915

## 6. 借入金の増減内訳

(単位：円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
該当なし				
合計				

## 7. 役員及びその近親者との取引の内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りである。

(単位：円)

科目	計算書類に計上された金額	内役員及び近親者との取引
(活動計算書)		
受取会費	240,000	40,000
受取寄附金	52,900,157	6,940,000
活動計算書計	53,140,157	6,980,000
(貸借対照表)		
貸借対照表計	0	0

## 8. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

- ・ 事業費と管理費の按分方法  
事業費と管理費に共通する経費のうち、派遣職員費、通信費、地代家賃、リース料は使用割合に基づき按分している。
- ・ その他の事業に係る資産の状況  
該当なし